伝える側となる人を育てる

授業で使用された市作成資料は市ホームページ（右記）から閲覧できます。

小笠南小学校 4年生

「一つの花」を学ぶ前に

6月、小笠南小学校4年生の教室で、戦時中の出来事を伝える授業が行われました。これは、国語の教科書にある戦争を題材にした物語「一つの花」の学習に先立ち、当時の背景を理解してもらうために実施されたものです。

授業では、広島平和記念資料館が公開している「原爆の絵」を使って、惨状を視覚的に伝えたほか、令和4年7月発行の「広報菊川（特集）」や朗読動画「戦没者御遺族の手記（市福祉課作成）」も活用。戦争が遠い場所の出来事ではなく、この地域にも深く関わっていたことを伝えました。授業を受けた中田優光（まひろ）さんは「自分の命も周りの人の命も大切だと感じた。命を大切にするために戦争はやりたくない」と話しました。

教え子を再び戦場に送るな

戦争体験を語り継ぐ会（静岡県退職女性教職員の会小笠支部）

平和の願いを語り継ぐ

昭和44年に結成された静岡県退職女性教職員の会小笠支部では、「教え子を再び戦場に送るな」というスローガンのもと、戦争体験者による語り部や資料作成などの平和活動を行ってきました。しかし、戦後70年以上が経過し、戦争体験者が減少。この状況下で今後どのように語り継いでいくかを考えるため、平成29年に「戦争体験を語り継ぐ会」を発足しました。現在は、菊川市・掛川市など東遠地域の元女性教員8人が、伝承活動などに取り組んでいます。

子どもたちに贈る授業

主な活動内容は、要請を受けた小中学校での出前講座。テーマは「空襲の恐ろしさ」と「食糧難の苦しさ」の2本柱で、戦争の悲惨さを伝えています。また「体験者の語りの力」が子どもたちの心を動かす大きな原動力になると考え、会の一員であり、国民学校4年生の時、妹3人を連れ静岡空襲の中を逃げた杉枝明子（あきこ）さんにその実体験を毎回話してもらっています。市内でも昨年、六郷小学校6年生に向けて授業を実施しました。

その他にも「語ることができる今のうちに」と、戦争体験者12人の語りを収めたDVDと印刷物を令和4年に作成しました。

活動を続ける想い

現在、9年目を迎えた会の活動は、月に1回集まり、講座の打ち合わせや勉強会を行っています。活動当初は年間1、2件だった出前講座も、昨年は年間6件に増加。地道な取組が実を結び、子どもたちに「戦争の悲惨さ」と「命の大切さ」を伝え続けています。

平成3年に同支部が作成した戦争体験記『絣（かすり）のもんぺ』を手に、会員の梅津純子（じゅんこ）さんは「先輩たちが作り上げた資料とその努力は大変素晴らしいものです。同じ会員としてこの貴重な資料と、中に記されている『想い』は受け継がなければいけないものだと感じています」と、会員として活動を続けている思いを話しました。

p17で紹介中

伝えると共に学び続けていきたい

児童から「戦争はなぜ起きるの？」と質問された時、「戦争の悲惨さ」を伝えるだけでなく、その歴史的な背景も私たち自身が学ぶ必要があることに気が付きました。この活動が子どもたちにとって平和を考えるきっかけになることを願い、これからも学び伝え続けていきたいです。

戦争体験を語り継ぐ会　代表　溝口　紀技（のりえ）さん